



学校だより 7月号

横浜市立日吉南小学校

令和8年7月6日

ひよみなの情報は、学校ホームページからどうぞ [ホーム - 日吉南小学校](#)

スポーツがくれる学びと感動

校長 栗原 信一

梅雨の合間に子どもたちの楽しみにしている水泳学習も少しずつ実施しています。これからの季節、気温もぐんぐん上がっていくと思いますが、学校では熱中症対策にも十分気を配りながら、子どもたちの健康管理に努めてまいります。

さて、「健康」と言えば、私は週末になるとジョギングに出かけています。…と言っても、最近はやや軽やかに颯爽と、とはいかず、「今日はここまでにしておこうかな」と自分と相談しながらの、ゆっくりペースです。それでも、緑道を走りながら鳥のさえずりを聞いたり、木漏れ日や風を感じたりして走る時間は、なかなか気持ちのよいものです。どうやら大人でも「外で体を動かすと気持ちがいい」という点では、子どもたちとあまり変わらないようです。

これまで体育科の研究に関わる中で、大切にしてきた言葉に「生涯体育」があります。現行の学習指導要領では「豊かなスポーツライフ」として示されています。子どもたちはもともと体を動かすことが大好きですが、成長とともに少しずつ距離ができてしまうこともあります。だからこそ、小学校の時期に「楽しい」「気持ちいい」と感じる経験をたくさん積むことが大切だと思います。また、スポーツは「する」だけでなく、「見る・応援する」ことでも楽しむことができます。

そこで本校では、6月26日にサッカーワールドカップ2026、日本対スウェーデン戦のパブリックビューイングを実施しました。時間の都合上、後半のみの観戦となりましたが、全校児童と教職員が共に応援する中で、体育館には不思議な一体感が生まれました。得点が入った瞬間は大きな歓声に包まれ、感動を共有する素敵な時間

となりました。観戦後、「引き分けだったけど、どっちもがんばっていてすごかった!」と笑顔で話す児童の姿もあり、勝ち負けだけではないスポーツの魅力を感じてくれていることをうれしく思いました。

さらに今回は「見るだけ」で終わらせず、学びの機会としても位置付けました。事前の給食時間の放送では、国際理解担当の教員からワールドカップの意義や対戦国スウェーデンについてのクイズなどを通して、世界の文化や社会にも目を向けるきっかけづくりをしました。また、学校司書は、図書室前にワールドカップコーナーを設置し、子どもたちの興味を引き出すための掲示をしました。これらの取組の下、遠い国の文化や日本との関係など、子どもたちにとって新しい発見もあり、スポーツを通して自然と国際理解が深まる時間となったと思います。そして、試合後に選手たちが互いの健闘を称え合う姿からも、子どもたちは大切なことを感じ取ってくれたのではないのでしょうか。相手の努力を認め、握手を交わし、言葉をかけ合う姿には、スポーツが育むフェアプレーの精神があふれています。

今回の取組が、子どもたちにとって「スポーツって楽しいな」「応援するのもおもしろいな」と感じるきっかけとなるとともに、世界に目を向けるチャンスとなってくれることを願います。

これからも、知・徳・体の調和を大切にしながら、子どもたちの学びと成長につながる教育活動を進めていきたいと思っています。

